



魚群探索、運搬機能も兼ねた国内初の巻き網船団本船となる第88惣宝丸
 10日午前7時50分、八戸市白銀町の第三魚市場外岸壁

1カ統2隻体制巻き網船団 第88惣宝丸が八戸入港 出漁近づくと、15日に神事

八戸市の福島漁業(福島哲男社長)が国内で初めて建造した一カ統二隻体制の巻き網船団の本船第88惣宝丸(三〇〇ト)が十日、八戸港に入港し、探索船、運搬船(網船)、探索船、運搬船二隻の四隻編成が主流で、五十五人が乗り組んでいる。第88惣宝丸船団は、運搬と探索機能を兼ねて大型化した本船と、運搬船(第37惣宝丸三〇〇ト)で編成。本船の建造費は十五億円。一カ統の水産資源状況の悪化などを背景に、水産庁が導

入を進める「構造改革乗組員数は三十三人で約四割削減、燃料コストも大幅に圧縮され、同社は「漁獲量が現状より三割少なくても採算がとれる」と見込んでいる。同社では十五日午前十時すぎから、新船が接岸する第三魚市場(白銀)外岸壁で神事とちまきを行う予定で、二千個以上の紅白もちを準備した。市民に来てもらえば」と話している。